

カキ礁の評価

- ① カキの隙間等が魚介類の幼稚仔の生息場となる。
- ② 海岸侵食の防止となる。
- ③ カキが水質を浄化する（1時間に30～40ℓの海水を濾過する）。
- ④ カキの偽糞がゴカイ等の餌となる。

偽糞とは：カキの水質浄化能力を③に示したが、海水中の微粒子をすべて自分の餌として体内に取込まない。取込まれない微粒子は固形物となって、体外に出される。この体外に出たものを偽糞と言う。

- ⑤ 生物が多様となる。
- ⑥ 食用としてのカキの収穫ができる（但し、本海域の現況では困難）。
- ⑦ アサリの生息場にカキ礁が発達した場合は、アサリの生息域が減少する。

マテガイ *Solen strictus* Gould

(目八) 馬刃貝

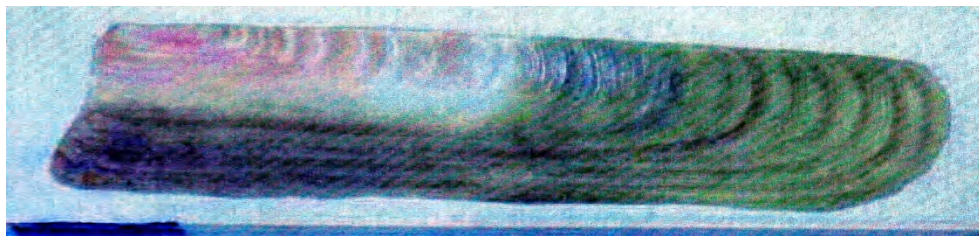
マテガイ科 殻長12cm。両殻合わせると筒状、殻皮はわら色。分布は北海道南西部以南。本海域では幼貝の生息は多いが、10cmまで育つものは少ない。産卵期は5～7月。





マテガイの大量死 (写真左：羽田浅場貝桁 2010年8月)

(写真右：横浜野島公園 2007年9月 小泉正行)



マテガイ絵図 目八譜 天保14年(1843年)

漢字で馬刀貝と書くが、貝殻の縁がうすくて鋭く、手などを切ることから、内湾の漁業者は「カミソリ」と呼ぶ。マテガイの取り方は、表面の砂を浅くすくい取るとマテガイの潜っている穴を見つけることが出来る。その穴に食塩を入れると飛び出して来る。お台場を舞台にしたテレビ放送もあった(2012年)。

「面白や 馬刀居る穴 居らぬ穴」(正岡子規)

「馬刀突きの 子の上手なる たかり見る」(高浜虚子)

食用には『湯がいて』酢味噌または焼いて食べるなど。



マテガイ絵図 千蟲譜 文政8年(1825年)

栗本丹洲、幕府の医官、医師の最高位である法印。千蟲譜は、昆虫、カニ、両生類、爬虫類からコウモリまで、その種数は約 580 種。1826 年（文政 9 年）、シーボルトと面談。シーボルトは丹洲の描いた「蟹蝦類」をオランダに持ち帰り、デ・ハーンが「ファウナ・ヤポニカ」（日本動物誌）に 7 種を引用している。

マメウラシマガイ *Ringiculina doliaris* (Gould)



後鰓類 マメウラシマガイ科 殻長 0.5cm。殻は小さい厚く白色光沢、殻口周辺は肥厚する。小さいが美しい貝。分布は北海道南部以南。

和名の由来はウラシマガイに似た小さな貝。ウラシマガイ *Semicassis bisulcata persimilis* Kira（群品）浦島、殻高 5cm。



(参考) ウラシマガイ（土佐湾産）